

図書館だより

～ 今月のおすすめ本 ～

世界の美しい透明な生き物



水滴を吸ってほんのひととき透明になる花、森の中にひっそりたたずむキノコ、熱帯の森で暮らすガラスのカエル、魚や貝、エビ、クラゲなどの海の生き物たち。世界中の透明な生き物を集めた写真集。(東)

はじめてのルーヴル

中野京子



世界最大級の美術館であり、パリ随一の観光名所でもあるルーヴル美術館。その所蔵作品の中から厳選した名画 39 点を紹介。絵画の魅力、作品の背景に広がる物語、画家の人物像などについて、魅力溢れる文章で語られる。(西)

▶詳しくは、東図書館 ☎ 62・0190
西図書館 ☎ 75・5406) へ。



ごみブクロウの(方法)
『エコな生活ホーホー』教えます!

ごみブクロウがおすすめする

「アダプト・プログラムまいづる」

支援も充実
アダプト制度



用具類
ボランティア保険
ユニフォーム

舞鶴のまちをきれいにするために、協力していただけの人を随時募集中。あなたもアダプト・プログラムまいづるに参加しませんか。
(※ 11月号に関連記事)

※平成 25 年 7 月末現在、29 団体 6 家族 7 個人、計 779 人が活動に参加しています。

▶詳しくは、生活環境課 ☎ 66・1005) へ。



ドクターTのひとりごと

その⑤「終戦記念日(8月15日)を迎えて」

先日、引揚船「永禄丸」で舞鶴に復員帰国された方から手紙が届きました。その一部を原文のまま抜粋します。

「あの時の舞鶴の事だけは忘れようとしても忘れられるものではございません。平棧橋に入港。(中略) 夕食も大変でした。尾頭付の鯛の塩焼、お赤飯と、いつも夢見ていたお味噌汁、そして日本人の食事には付きものの沢庵、これ程の日本人らしい豪華な夕食があるだろうか。捕らわれの身のこの食事には知らず知らずに涙がホホをつたったのでした。(中略) 帰国の日には、早朝から婦人会の方々の湯茶招待、何もかも行き届いた姿を拝見して、又、楽しくうれしくなる有難い気持ち一杯でした。何かにつけての数々、本当に有難うございました」

この手紙から戦争の悲惨さ、平和の尊さ、平凡に暮らすことの有り難さ、そして親切心と感謝の気持ちの重要性を改めて認識しました。戦後かなりの年月が経過し、平和に慣れてしまい、今述べた大切な意識が次第に薄れていると感じるのは私だけでしょうか。先人達の思いを後世に伝えるため、舞鶴引揚記念館の所蔵品を世界記憶遺産に登録できるよう頑張りたいと思います。

まいづる花図鑑

85

【ミゾカクシ】

(キキョウ科)
見ごろ8～10月頃



田のあぜや溝などの湿ったところに生える多年草。茎は枝分かれして地上を這い、節から根を出し先端は立ち上がり高さは 10 ～ 15 ㍎位。葉は披針形で互生する。夏から秋にかけ葉の腋から花柄を伸ばし先端に白色で薄紫色をおびた小さな花を 1 つずつ付ける。花冠は深く 5 列し上唇 2 枚、下唇 3 枚に分かれる。別名アゼムシロとも呼ばれ、どちらも溝やあぜを隠すくらい広がるのが名前の由来。

【協力】

瓜生勝朗 市文化財保護委員(植物分野)

「引き揚げ」の記憶を次世代へ

引揚記念館に展示・保管している海外からの引き揚げやシベリア抑留などに関する約 1 万 2 千点の資料の中から、今回は「^{マージャン}麻雀牌」を紹介します。

シベリア抑留中に麻雀牌が作られていたことはあまり知られていません。当館に来館される人の多くが展示してあるのを見て、食糧も乏しい中で遊興に興じていたのかと驚かれます。しかし、この麻雀牌は、過酷な環境の中でも精神的な余裕を意図的に生み出すために作られたものです。

シベリアに抑留された人が、ある雑誌の中で次のように証言されています。

「抑留者は毎日の強制労働に疲れ、兵営内の殺風景な日常生活を繰り返すだけでは神経をいら立たせ、あるいは憂鬱をきたし(中略)…卓を囲んで^{マージャン}麻雀をやっていたら、お互いの苦勞一切を忘れ、笑いのうちに、融和、親睦、慰安の時を過ごすわけで、効果絶大でした」

麻雀という娯楽があったおかげで、つらい抑留生活の中でも心の支えとなり、麻雀牌を作る過程においても、“ものづくり”に没頭することで、しばらくの間、



麻雀牌

望郷の念から解放され、少しでも疲労や空腹感を紛らわせていたのでしょう。そして、完成することを楽しみに明日への希望につなげていたものと思われる。

当館に収蔵されている麻雀牌は、シベリアの大地に多く植生する白樺の木で作られています。1 つひとつの牌が丁寧に作られており、手先が器用で勤勉な日本人の国民性を見ることが出来ます。

このシベリアで作られた麻雀牌は、日々の過酷な労働による疲労や抑留生活の中で生じる不安や憤りなどを和らげ、必ず生きて祖国の地を踏みしめるための心の支えとなった重要な道具なのです。

▶詳しくは、引揚記念館 ☎ 68・0836) へ。

広げよう人権の輪

～ 母に支えられて～

私は今年の3月に定年退職を迎えました。2人の子どもを育てながら自分のやりたい仕事を続けることができたのは母が居てくれたおかげです。朝から夜遅くまで孫の面倒を見ながら家事のほとんどを引き受けてくれた母は「私は 24 時間専業主婦、休む間がないわ」と言いながらも私を支えてくれました。

2年前、母は骨折をしたことをきっかけに介護が必要な状態となってしまう、私は仕事を続けていくべきかどうか悩みました。「もうちょっとやらないか、私も頑張るからあんたも頑張りなさい」との母の一言が私の背中を押してくれたことを覚えています。あの言葉がなかったら私は志半ばであきらめていたことでしょう。

現在 84 歳の母は、若いころから体が弱くて病気と縁が切れることがなく、大きな手術を何度も経験しているため、病気と上手に付き合いながら生活をしなければなりません。そんな母ですが「孫の世話をすると自然と元気が出る」と言います。娘のために、孫のためにがんばることが母の生きがいになっているのだと思います。

母は、退職の日「おめでとう。38 年間よく頑張っ

たね。本当にお疲れさま。私も嬉しいよ」と自分の事のように喜んでくれました。時には厳しく、時には優しく励まし支えてくれた母からの言葉に「母さん今までありがとう、そしてこれからもよろしくお願ひします」とそんな感謝の気持ちでいっぱいになりました。

自分のことで精一杯になってきた母ですが、今日も朝から「起きなさいよ、遅刻するぞ」と元気な声が家中に響きます。「おばあちゃん、今日は、お休みやし」「そやったかいな、ごめん、ごめん」あれこれと気をもむ母は、まだまだわが家の主婦です。

《人権啓発推進室》



9月16日は敬老の日です